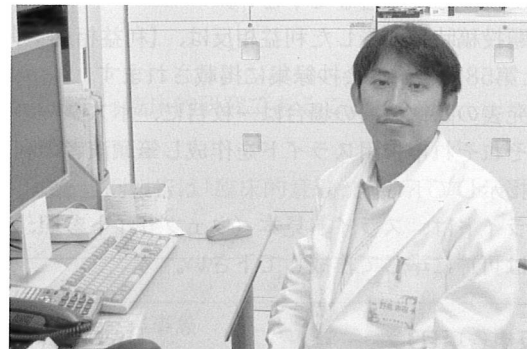


## 開業医からの視点

### 広島でリウマチ膠原病専門診療をつづけるために

野島 崇樹 野島内科医院



2010年8月に京都大学病院免疫膠原病内科（三森経世教授）を退職し、同年9月より広島市佐伯区の野島内科医院で働いています。いまも京都大学には月2回、ミーティングなどに出席して情報入手に努めており、また、広島大学病院リウマチ膠原病内科（杉山英二教授）で、木曜午前に若手医師との病棟回診や勉強会、木曜午後専門外来を行う機会をいただいています。

野島内科医院は、祖父：小野遼二が戦後より続けてきた小野医院を、父：野島直樹が昭和53年1月に継承開業しており、野島崇樹が帰郷したことにより三代目の時代を迎えました。これまでの紙カルテを電子カルテ化・X線フィルムをCR化し、内外装をリニューアルすることで、新装野島内科医院として父と二人体制で診療を行っています。

近隣にリウマチ膠原病の専門医が不在な地域であったため、広島市佐伯区だけでなく、隣接する広島市西区、廿日市市（宮島&厳島神社で有名）や、大竹市・岩国市からも患者を紹介いただける状態であり、慶応大学病院、産業医科大学病院、

京都大学病院で培ってきたリウマチ膠原病の専門診療を生まれ育った地元に還元することができています。

広島大学病院に通院するリウマチ膠原病患者のなかで、広島市西区から以西のかたは、土曜日など通院時間が調整可能な野島内科での通院を希望されることも多く、開業3年でRA患者約300名、RA以外の膠原病患者約150名を抱える状態となっています。

RAなどの膠原病は、皮膚関節筋のみでなく、肺心肝腎など全身の臓器が障害されることにより、全身管理とくに呼吸器疾患の見極めが大切となります。近隣との診診・病診連携だけでなく、専門的な入院診療が可能な施設とのコンタクトが重要であり、広島大学病院を中心に広島県立病院、広島赤十字・原爆病院、広島市立病院、JA広島総合病院との密な連携をさせていただくことで、野島内科医院に通院している患者の総合的な診療が可能となっています。

近年の抗リウマチ薬の進歩（生物学的製剤の躍進、新規の低分子化合物など）により、多関節炎のコントロールが可能な患者が増えたのと同時に、免疫抑制療法による恒常的易感染性患者を多数かかえつづけることとなりますので、共通電子カルテの導入など、広島市の病診連携体制の整備がさらに整うことを期待しています。

個人としては日本でトップレベルのリウマチ膠原病診療をつづけることを目標に、また、広島大学病院での若手医師の指導を通して、広島県全体のリウマチ膠原病の臨床レベルが日本のトップレベルに近づくよう、微力と思いますが日々精進してまいります。



▲野島内科外観